

第3学年 総合的な学習の時間指導案

1. 単元名 「○○産やさいを育てよう～地いきの名人に学ぼう～」

2. こんな子どもだから

- 子どもたちは、3年生になって行動範囲も広がり、遠くに遊びに行くことも増えてきた。地域にある建物や店、施設などにも興味をもち、知っていることも多くなった。1学期は、社会科学習で校区探検を行い、そこから得た地域に関する情報の量や内容も増えてきていて、地域についてもっと詳しく知りたいという意欲も感じられる。
【主体的、創造的な態度】
- 子どもたちは、2年生の時に地域の人に協力していただき、野菜を育て収穫するという体験をしている。しかし、土作りやその他の細かい世話についてはそのほとんどを地域の方たちに委ねていて、種まきから収穫に至るまでの知識や苦労といったものは全く経験しないままである。
【問題解決にあたっての学び方】
- 子どもたちは、校区探検の時に、SSのG Tのビニルハウスを見て、「こんなビルや道路にはさまれた所になぜ、ビニルハウスがあるのだろうか」という素朴な疑問をもっている。そこには○○の地域を愛し、ここでつくることができる安全でおいしい野菜づくりにこだわるG Tの姿勢があることに気付かせ、地域とともに生きる人としての生き方を少しずつでも考えていききっかけとなればと考えている。
【自己の生き方への自覚】

3. こんな教材で

① 本質性

○○校区は、近くに市民センター・区役所・保健所などの施設があり、マンションやビルなどの住宅・店舗も多く、都会的で田畑がほとんどない校区である。

このような校区の中で、農業を営んでいるG Tは、○○という地域を考え、農業による周辺の影響をなるべく少なくしながらさらにおいしい野菜をつくるために工夫をしている。そんなG Tの野菜づくりを見て、今まであまり身近でなかった野菜づくりに対して関心をもち、地域とともに生きるに近づこうとすることで、これからも地域に積極的にかかわろうとする意欲を高めることができるようになる。

② 課題性

実際に日々自分たちの手で野菜づくりをし、野菜づくりの大変さや野菜が生長していく喜びを味わい、野菜づくりの楽しさを知ること、自分もG Tのような野菜をつくることのできるという有能感を高めることができるようになる。

③ 発展性

G Tの願いにふれ、地域とともに生きる姿を学び、G Tの願いを広めていく活動を通して、地域の役に立ったという有用感をもつことが、地域にかかわろうとする活動に生かされると考える。

4. こんな支援で

「受ける」段階

○ 校区で野菜づくりをしているG Tの畑に実際に行き、収穫をし、話を聞くことで課題1を設定できるようにする。

○ 分かったこと・困ったことなどを出し合い交流ボードを使って情報を交換させることで情報を共有し、今後の野菜づくりに生かすことができるようにする。

○ G Tと繰り返しかかわりながら課題を解決していくことで、G Tが「安心」で「おいしい」「地域にこだわった」野菜づくりをしているというG Tの価値に気付かせることができるようにする。

○ つなぎの交流では、G Tの話（子どもの学びへの賞賛・価値付け・G Tの願い）を聞かせることで、課題2を設定することができるようにする。

「返す」段階

○ ○○産野菜のよさやG Tのよさを地域に広める工夫をさせることで、「受けた」ことを「返す」という意識をもつことができるようにする。

○ G Tや地域の人に○○産野菜のよさを広める活動を評価をしてもらうことで、子どもたちが有用感・有能感を味わうことができるようにする。

5. こんな子どもに

- 野菜づくり体験と野菜づくりに取り組むG Tの姿から、自分の課題をもつことができる。
【主体的、創造的な態度】
- 体験をしたり、調べたりしたことをもとに課題を追究し、自分の考えを明確に伝えたり、相手と比べて考えたりすることができる。
【問題解決にあたっての学び方】
- ○○さんや地域とのかかわりの中で地域に関心をもち、自分の行動や考え方を振り返り、これからの生活に生かすことができる。
【自己の生き方への自覚】

6. 学習活動計画（計32時間）

段階	問題解決の学習過程	地域との双方向の関係づくりを成立させる支援	配時
受ける	<p>1. 学習課題1について話し合う。⑥</p> <p>(1) 校区地図を見て、〇〇の町で野菜づくりを仕事としているGTの話聞き野菜を収穫する。</p> <p>(2) GTの畑に行き、話を聞く。</p> <p>(3) 学習課題について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課題1 おいしくて、安全な〇〇産やさいをつくるにはどうしたらいいか調べ、育てよう。</p> </div>	<p>※ 社会科の学習で、スーパーマーケットの野菜売り場の写真を見せ、福岡市産の野菜が少ないことに気付かせる。</p> <p>※ 農薬を使わずにおいしくて安心できる野菜をつくっていることをGTの話聞くことで、気付くことができるようにする。</p>	2 3 1
	<p>2. 自分の課題をつくり、調べる計画を立てる。⑤+課外</p> <p>(1) 自分の課題を決める。</p> <p>(2) 調べる計画を立てる。</p> <p>○ どんな方法で調べるのか。</p> <p>○ 手順について話し合う。</p> <p>3. 自分の課題の解決に取り組む。⑤+課外</p> <p>(1) 実際に野菜をつくりながら、うまくいかないところや分からないところを質問したり、調べたりする。</p> <p>(2) 交流ボード・交流会で情報を交換し合う。</p> <p>4. 野菜づくり発表会をする。⑤+課外</p> <p>(1) 野菜づくり発表会の準備をする。</p> <p>○ 何をつくったのか。</p> <p>○ どんなことを工夫したのか。</p> <p>(2) 野菜づくり発表会をする。</p> <p>○ GTのつくっている野菜をめぐして、どんなことを工夫したか。</p>	<p>※ GTと繰り返しかわる場面を作ることで、困ったことや分からないことを解決し、野菜づくりへの意欲が継続できるようにする。</p> <p>※ 分かったこと・困ったことなどを出し合い、交流ボードを使って情報を交換させることで、情報を共有し、今後の野菜づくりに生かすことができるようにする。</p> <p>※ GTが「安全・安心」な「おいしい」野菜づくりをしていることを確かめさせることで、GTのよさに気付くことができるようにする。</p>	1 4 3 D組本時(5/5) A組本時(4/5)
つなぎの交流	<p>(3) 〇〇産野菜のよさについて話し合う。</p> <p>○ 〇〇産野菜のよさ</p> <p>○ GTのよさ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課題2 〇〇産やさいのよさを地いきに広めよう。</p> </div>	<p>※ GTに今までの活動を賞賛してもらうことで、有能感を味わわせる。</p> <p>※ GTに野菜づくりへの願いを話してもらうことで、〇〇産野菜のよさを地域の人に広めていこうとする意識をもたせ、これからの課題を設定させる。</p>	B組本時(5/5)
返す	<p>5. 〇〇産野菜のよさを広める計画を立て、取り組みをする。⑦+課外</p> <p>(1) 〇〇産野菜を広める計画を立てる。</p> <p>○ 誰に・何を・どんな方法で・どのように広めるか。</p> <p>(2) 〇〇産野菜のよさを伝えるための表現物をつくる。</p> <p>(3) 〇〇産野菜のよさをより広く伝えるために意見交流をする。</p> <p>(4) 意見交流をもとに工夫を加える。</p> <p>6. 〇〇産野菜を広める会をする。②+課外</p> <p>(1) 〇〇産野菜のよさについて知らせる。</p> <p>(2) 〇〇産野菜のよさを広めるための活動を考え、実践する。</p> <p>7. 学習を振り返り、これからの生活について話し合う。②</p> <p>○ 自分で調べ、課題を解決をすることができたか。</p>	<p>※ 意見交流をすることで、よさをより広める方法を見つけ出し、〇〇産野菜を広める会への意欲をさらに高めることができるようにする。</p> <p>※ 野菜づくりをするGTを通して自分たちが学んだことを広めることで〇〇の町に対する愛着を強めることができるようにする。</p> <p>※ これからも、野菜づくりだけでなく、地域の様々なことに自分から参加し、かかわっていくことができるようにする。</p>	1 3 C組本時(5/7) 2 2 2

8. 本時の目標

- GTから学んだことや自分なりに工夫した野菜づくりについてわかりやすく伝え、自分の工夫と友達の工夫のよさを比べながら聞き、今後の活動に生かせることを見つけることができる。

【問題解決にあたっての学び方】

9. 本時指導の考え方

本時は、有機野菜づくりをしている〇〇さんから学んだことや自分で工夫したことを表現物にまとめ、野菜づくりの工夫を分かりやすく伝え、有能感を高める場面である。「受ける」段階における学びの過程を振り返り、互いに意見交流をすることで、今後の活動をさらに発展させていく意欲を高めることもねらっている。

そこで、本時では、野菜づくりの工夫が分かりやすく伝わり、子ども一人一人の取組の成果が互いに認め合えるように、話す側には、自分の取組が具体的に伝わるような表現物を準備させておき、各野菜グループごとに発表するようにしている。話す視点としては、「うまくいかなかったことの解決の工夫、から学んで工夫したこと」を伝えるようにしている。うまくいかなかったことをどのようにして解決していったのか、GTから学んだことをどのように自分の野菜づくりに取り入れていったのかを具体的に話すようにしている。聞く視点として、「友達の野菜づくりの工夫のよさ、今後の活動に生かせそうなこと」をもとにして友達の発表を聞くようにさせる。自分と友達の考えや工夫を比較しながら聞き、互いに意見交流をしながら、今後の野菜づくりに生かしていけることは何かを話し合い、GTの安全・安心でおいしい野菜づくりへの願いに気付くことができるようにする。

このことで、「受ける」段階の最後の場面から、「課題2」をつくる場面であるつなぎの交流へと発展させ、「返す」段階に向かって子どもの課題意識を高めることにつながるといえる。

そこで、本時学習の指導における目標達成のための主な支援は、以下の3点である。

- ① 発表するときに、話す視点 (①うまくいかなかったことを解決した工夫、②GTから学んで工夫したこと)、聞く視点 (①友達の工夫のよさ ②今後の活動に生かせそうなこと)を示すことで、表現物を使いながら分かりやすく話し意欲的に伝え、友達の工夫を自分の工夫と比べながら聞き、友達の学びを共有化することができるようにする。
- ② 友達の発表を聞いた後に、自己評価カード (①GTに学んで工夫したことを友達に伝えることができたか《話し手》、②友達の工夫のよさを見つけることができたか《聞き手》、③今後の活動に生かせそうなことを見つけることができたか、)を書かせることで、自分の活動を振り返り、有用感・有能感をもたせることができるようにする。
- ③ 自己評価カードの感想を発表することで、今後の活動に生かせそうなことを具体的に考えることができた子どもを紹介し、次時の学習への意欲を高めることができるようにする。

10. 準備

(教師) 前時までの学習を整理した掲示物、話す・聞くの視点を示した掲示物

(子ども) 発表に使用する表現物、自己評価カード

11. 展開

学習活動と内容	評価規準	支 援
<p>1. 前時学習を想起し、本時学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本時のめあて やさいづくりのくふうについて発表をしよう。</p> </div> <p>2. 野菜づくり発表会をする。 (1) 話す・聞く視点を確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《 話す視点 》</p> <p>① うまくいかなかったことを解決した工夫 ② GTから学んで工夫したこと</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《 聞く視点 》</p> <p>① 友達の工夫のよさ ② 今後の活動に生かせそうなこと</p> </div> <p>(2) 野菜づくり発表会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 馬糞を発酵した土づくりは牛糞を使っている。 ○ 土や自然に優しい肥料は油かすを肥料として混ぜる。 ○ 水やりは適切な量にする。 ○ 除草剤をつかわないで草取りを定期的にする。 ○ 野菜づくりは心をこめた手入れが大切である。 <p>3. 今後の活動について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ GTのように安全・安心でおいしい野菜づくをした い。 ○ 今後の野菜づくりに、みんなの工夫を取り入れたい。 <p>4. 自己評価カードを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友達の学びのよさを見つけることができたか。 ○ 今後の野菜づくりに生かせそうなことを見つけることはできたか。 ○ GTの野菜づくりにかける願いを考えることはできたか。 <p>5. 教師の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの学習への価値付け・賞賛 ○ 次時の学習の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>今日の学習は、GTから学んだことや自分で工夫したことを取り入れた野菜づくりについて分かりやすく発表することができました。(賞賛) GTから学んだことや友達の工夫も今後の活動に生かしていくことができそうですね。(価値付け)</p> <p>次の学習では、GTの野菜づくりに対する願いについて話し合い、○○産野菜のよさを見つけましょう。(次時の学習の確認)</p> </div>	<p>【観点】 問題解決に あたったの学び方</p> <p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の学びや工夫を伝え、友達の考えと比べながら聞き今後の活動に生かしたいという意欲を高めている。 <p>【評価方法】 表情・発言 自己評価カード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの学習を整理した掲示物を示すことで、前時までの学習を想起しやすいようにする。 ○ 発表会のときの話す・聞くの視点を確認することで有用感をもたせるようにする。 ○ 友達の発表を聞いた後、自己評価カードに(①GTに学んで工夫したことを友だちに伝えることができたか《話し手》②友達の工夫のよさを見つけることができたか《聞き手》③今後の活動に生かせそうなことを見つけることができたか)を書かせることで自分の活動を振り返り有能感をもたせるようにする。 ○ 自己評価カードに、GTの願いが書かれているものを発表させ、次時への意識を高めることができるようにする。

8. 本時の目標

- 野菜づくりの体験や野菜づくりに取り組むG Tの姿，家族・親戚・地域の方の助言などから，自分の課題をもち，継続して追究することができる。【主体的・創造的な態度】
- 自分の野菜づくりについて，相手に明確に伝えることができ，自分のやり方と比べて聞くことができる。【問題解決にあたっての学び方】

9. 本時指導の考え方

子どもたちは，今までに地域でつくられた取れたての野菜を食べ，野菜のおいしさを再確認し，自分もおいしい野菜をつくってみたいという意欲を高めてきた。その上で，この地域でこの季節にはどんな野菜ができるか，どうやってつくるのかを調べたり，家族や親戚・地域の方に尋ねたりして，自分のつくる野菜を決定し，試行錯誤しながら育ててきた。

本時は，日頃情報交換をしている交流ボードを使い，交流の時間を十分にとることによって，交流して得たものを共通のものとして意識させ，野菜づくりにさらに意欲的に取り組むことができるようにすることをねらいとしている。G Tの話の聞いたり，G Tの育てている野菜と自分たちの野菜を比べることにより，G Tの野菜にかける思いを知り，野菜づくりの上での工夫・苦勞をしっかりと経験することで，願いをもって努力しているG Tの姿をより明確に感じることができ，次のつなぎの交流にも生かされるであろうと考える。

そこで，本時学習の指導における目標達成のための主な支援は，以下の2点である。

- ① 自分で継続してつくっている野菜は，G Tのつくっている「安心で」「おいしい」野菜になっているかを絶えず振り返って，自分のものとして聞き，考えさせるようにする。
- ② 交流ボードなどを示しながら，相手に伝わりやすい形で発表できるようにする。

10. 準備

（教 師） 今までの野菜づくりの写真

（子ども） 今までに交流した交流ボード 自己評価カード

1 1. 展開

学習活動と内容	評価規準	支援
<p>1. 前時までの学習を想起し、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本時のめあて 今までの〇〇産やさいづくりの様子を知らせ合おう。</p> </div> <p>2. 自分たちの野菜づくりについて途中の様子を発表し合う。</p> <p>(1) 聞く視点を確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《聞く視点》</p> <p>① 友達のやさいづくりの工夫。 ② これからのやさいづくりに生かせそうなこと。</p> </div> <p>(2) 野菜づくり交流会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の決めた野菜は何か。 ○ その野菜づくりのポイントは何か。 ○ どんなことに気をつけてつくってきたか。 ○ つくってみて、どんな具合か。 ○ どんなことに困っているか。 <p>3. 発表を聞いて、自分の計画をもう一度考え直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今からの手順を考える。 ○ およその計画を立てる。 <p>4. 自己評価カードを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の発表は相手によく伝わったか。 ○ 自分の計画は実行できるものになっているか。 ○ 聞いたことで、取り入れることはないか。 <p>5. 教師の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの学習への価値付け・賞賛 ○ 次時の学習の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>今までの野菜づくりの様子をみんなに分かりやすく伝えることができましたね。(賞賛) 友達の発表を聞いて、計画を付け加えたり、やり直したりできたと思います。(価値付け) 野菜づくり発表会に向けて、これからもしっかり野菜をつくっていきましょう。(次時の学習の確認)</p> </div>	<p>【観点】 主体的・創造的な態度</p> <p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の野菜づくりの計画と比べながら聞き、自分の計画をさらによりよいものにして、野菜づくりを進めていこうとする意欲を高めている。 <p>【評価方法】 発言・表情 自己評価カード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流ボードを使って発表することで、自分たちの野菜づくりと一つ一つ比べながら聞くことができるようにする。 ○ 自分たちの工夫を交流することで、GTのような野菜をつくることができそうだという有用感・有能感をもたせ、さらによりよい活動をしたいという意欲を高めていきたい。

8. 本時の目標

- 自分の見方・考え方の不十分さに気づき、新たな課題を見いだすことができる。

【自己の生き方への自覚】

9. 本時指導の考え方

子どもたちは、今まで〇〇の町で野菜づくりをしているG Tの畑を見学し、その野菜を食べさせてもらうことで、新鮮で安全なおいしい野菜を作るにはどうしたらいいかという課題をもち、野菜づくりを進めてきた。G Tは〇〇の町でどのくらい野菜づくりをしているのか、G Tの野菜に近づくためにはどうしたらいいのかなど自分たちで調べ、追究する活動を行ってきた。そして、子どもたちは今まで自分が取り組んできた野菜づくりの活動をグループごとに、野菜づくりで分かったこと、うれしかったこと、困ったことなどをG Tとのかかわり確かめながら伝えることができた。

本時では、「受ける」段階における学びの過程を振り返り、〇〇産野菜のよさをたくさん出し合うことで、『よさをもった〇〇産野菜を作ることができた』という有能感を実感することをねらっている。さらに、〇〇の町で野菜づくりを続けるG Tの「誇り」と「喜び」をG Tの話として聞くことで、〇〇産野菜のよさの中には、G Tのよさも含まれていることに気付かせることができる。また、「返す」段階における新たな課題2 追究への意欲を高めることもねらっている。

そこで本時では、小グループに分かれ、一人ひとりが実感した〇〇産野菜のよさについて話し合わせ、〇〇産野菜の価値を確かめさせる。そして、課題を解決するための追究過程でかかわっていただいたG Tから、子どもの学びについての評価をしていただき、子どもたちはG Tの話からG Tの願いに気付いたり、共感したりすることができるようにする。このことで、新たな課題2を見いだすことができるようになる。つまり「受ける」段階の最後の時間である本時は、「返す」段階に向かって新たな課題意識をもつ、つなぎとしての役割をもった時間である。

そこで、本時学習の指導における目標達成のための主な支援は、以下の2点である。

- ① 〇〇産野菜のよさをカードに書かせることで、話し合う内容を視覚的に分かりやすくし、考えを比べたり、よさを明確にしたりすることができるようにする。
- ② G Tから子どもたちのこれまでの取り組みを賞賛してもらったり、G Tの願いという新たな視点を話してもらったりすることで、有能感を高めたり、新たな課題に気付いたりすることができるようにする。

10. 準備

(教師) 前時までの学習を整理した掲示物、カード

(子ども) 自己評価カード

1 1. 展開

学習活動と内容	評価規準	支援
<p>1. 前時学習を想起し、本時学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本時のめあて 〇〇産やさいのよさについて話し合おう。</p> </div> <p>2. 〇〇産野菜のよさについて話し合う。 (1) グループに分かれて話し合う。</p> <p>(2) 〇〇産野菜のよさをカードに書く。</p> <p>(3) 全体で分類・整理する。 <input type="radio"/> 安全・安心 <input type="radio"/> 新鮮 <input type="radio"/> おいしい <input type="radio"/> 自分たちが作ったよさ</p> <p>(4) 〇〇産野菜のよさの中には、G Tの願いが入っていることに気づき、その願いについて話し合う。</p> <p>3. G Tの話聞き、課題について話し合う。 <input type="radio"/> 学び方や新たな視点の気づきへの賞賛 <input type="radio"/> 野菜づくりに対する『誇り』 <input type="radio"/> 野菜を食べてもらう『喜び』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課題 2 〇〇産やさいのよさを地いきに広めよう。</p> <p><input type="radio"/> 誰に、どんなことを広めるのか。</p> </div> <p>4. 自己評価カードを書く。 <input type="radio"/> 〇〇産野菜のよさを見つけることができたか。 <input type="radio"/> 『誇り』と『喜び』をもっている〇〇さんのよさに気付くことができたか。 <input type="radio"/> 地域に伝えていきたいという子どもの願いをもてたか。</p> <p>5. 教師の話聞く。 <input type="radio"/> 子どもの学習への価値付け・賞賛 <input type="radio"/> 次時の学習の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>今日の学習では、G Tから教えてもらって作った〇〇産野菜のよさをたくさん見つけることができましたね。(賞賛) みんなが「G Tから学んだことを生かして、野菜を作りたい。」という思いで一生懸命活動したことで、G Tが〇〇の町で『誇り』と『喜び』をもって野菜づくりをしていることに気付くことができたのだと思いますよ。 (価値付け) 次の学習では、〇〇産野菜のよさを地域の人に広めていく計画を立てていきましょう。(次時の学習の確認)</p> </div>	<p>【観点】 自己の生き方への自覚</p> <p>【評価規準】 <input type="radio"/> 〇〇産野菜のよさやG Tのよさに気付いたり、共感したりすることで、新たな課題を見いだすことができる。</p> <p>【評価方法】 表情・発言 自己評価カード</p>	<p><input type="radio"/> 〇〇産野菜のよさを一人一人にカードに書かせることで、話し合う内容を視覚的に分かりやすくし、考え方を比べたりよさを明確にしたりすることができるようにする。</p> <p><input type="radio"/> G Tの話(子どもの学びへの賞賛・価値付け・G Tの願い)を聞かせることで、新たな課題への意識を高めることができるようにする。</p>

7. 本時（26／32）

公開授業Ⅱ

（3年C組 教室）

8. 本時の目標

- ○○産野菜を育ててきた今までの活動や校区で野菜づくりに取り組むG Tの願いを振り返り、地域の人に○○産野菜のよさを広めようという意欲を高めることができる。 【主体的・創造的な態度】
- 地域の人に○○産野菜のよさを広く伝えるため、よりよい工夫を見つけ出すことができる。 【問題解決にあたっての学び方】

9. 本時指導の考え方

本時は、子どもたちが○○産野菜のよさを地域に広く発信するために、どんな方法で、どのように伝えていったらよいかを、表現物をもとにさらに見直し、工夫をする場面である。こうした活動をすることで、長年この校区で野菜づくりに取り組むG Tの願いにより深く共感することができるようになり、自分たちの発信した情報が地域の中で役に立つという有用感を次第に高めていくことができると考える。

そこで、本時では、子どもたちが表現物を見合い○○産野菜のよさを広めるための工夫がされているかどうか、またもっと工夫できるところはないかなどをお互いに評価し、不十分なところを教え合えるようにする。示した視点（①より広めるための発信の方法になっているか ②自分たちの表現物に生かせるところはないか）を意識して、友達の発表を聞くようにさせる。このようにみんなで意見交流をし、見直し、工夫をすることで、地域に向けてより広く発信をしようとする意欲を高めることができるようにする。

そこで、本時学習の指導における目標達成のための主な支援は、以下の4点である。

- ① 前時までの学習を整理した物を掲示することで、これまでの活動を振り返りやすくする。
- ② 発表を聞く際の視点を示したり、アドバイスカードを使ったりすることで、友達と自分たちの工夫を照らし合わせて聞くことができ、よりよい工夫をみんなで考えていくことができるようにする。
- ③ 表現物の異なるグループと交流をすることで、○○産野菜のよさをより広めるための工夫が他にもないだろうかという新たな視点での気づきができるようにする。
- ④ ○○産野菜のよさを表した表現物を見合い、意見を出し合うことで、表現物を互いに評価し不十分なところを教え合って、○○産野菜を広めていこうとする意欲をさらに高めることができるようにする。

10. 準備

（教師） 前時までの学習を整理した掲示物、○○産野菜のよさを示した資料

（子ども） 発表に使用する表現物、自己評価カード、アドバイスカード

11. 展開

学習活動と内容	評価規準	支援
<p>1. 前時学習を想起し、本時のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまで取り組んできた自分たちの活動や〇〇産野菜のよさを確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本時のめあて 地域の人に、〇〇産野菜のよさをもっと広めるためのくふうを考えよう。</p> </div> <p>2. 表現物ごとにグループで発表をする。</p> <p>(1) 聞く視点を確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>《聞く視点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ① より広めるための発信の方法になっているか。 ② 自分たちの表現物に生かせるところはないか。 </div> <p>(2) 各グループで発表し、意見交流をする。</p> <p>3. 自己評価カードを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 〇〇産野菜のよさをより広めるための工夫を考えたか。 ○ 自分たちの表現物で工夫したらよいところはどこか。 ○ 今後どのような活動をしていきたいか。 <p>4. 教師の話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの学習への価値付け・賞賛 ○ 次時の学習の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>今日は、〇〇産野菜のよさをもっと広めようと、友達の考えを聞いて、いろいろな工夫を考えることができましたね。(賞賛) その工夫をこれからの活動に生かすと、〇〇産野菜のよさをより広く伝えることができますと思いますよ。(価値付け)</p> <p>次の時間は、実際にその工夫を付け加えて広める会の準備をしていきましょう。(次時の学習の確認)</p> </div>	<p>【観点】 主体的・創造的な態度</p> <p>【評価規準】 ○ 〇〇産野菜のよさを地域の人により広めようという意欲を高めることができる。</p> <p>【評価方法】 発言、表情 自己評価カード</p> <p>【観点】 問題解決にあたっての学び方</p> <p>【評価規準】 ○ 〇〇産野菜のよさを表した表現物を見直しながら、地域の人に広く伝えるためのよりよい工夫を考えることができる。</p> <p>【評価方法】 発言・表情 自己評価カード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までに学習した内容を掲示しておくことで、これまでの学習を想起しやすいようにする。 ○ アドバイスカードを使うことで、友達と自分たちの工夫を比較して聞くことを意識できるようにする。 ○ 自己評価カードを書かせることで、より工夫していったらよいところを明確にし、〇〇産野菜のよさを広めようとする意欲をさらに高めることができるようにする。